

「食」や「農」を題材にした映画の公開が、昨年から続いている。

食品偽装が相次いで発覚し、食への不安や不信感が高まった昨年11月、食肉加工の現場を追ったドキュメンタリー「いのちの食べかた」が公開された。ミニシアターを中心に上映が行われ、今年9月まで全国各地を巡回する予定だ。

ファストフード・チェーンを舞台にした映画「ファーストフード・ネイション」も、今年2月に封切られ、7月までの公開が決まっている。日本でも話題になった『ファストフードが世界を食いつくす』（草思社刊）を元に作られた映画は、「いのちの食べかた」同様、食肉加工の現場からファストフード店の内情までを描いた作品だ。

食

農

テーマの作品

あいついで公開

ローチの仕方や視点は異なる。

2家族を中心に描いたドキュメンタリーだ。2家族とも地元出身ではなく、他県から入植してきた。カメラは彼らの日常生活を捉え、日々の生活や農作業の中に生まれる感情の機微を細やかに描いている。



ドキュメンタリー映画
「空想の森」の一場面

食品生産の現場に目を向けた日本映画の公開も予定されている。今月28日から公開される「いのち耕す人々」と、7月26日公開の「空想の森」だ。日本の2作品は、「食」と「農」を題材にしているものの、題材へのアプローチ・新得町で農業を営む

「いのち耕す人々」は、有機農法にこだわる農家の挑戦を通して、近代農業への疑問を提示した作品だ。利益を重視するあまり、食品の安全がおろそかにされているという点では「いのちの食べかた」や「ファーストフード・ネイション」と同じだが、問題へのアプローチは直線的ではない。また、どちらかというところ、「食」より「農」のありかたを中心に描いた作品だといえる。

「空想の森」は、北海道・新得町で農業を営む

